



たまご 卵をもったザリガニは、どうやってか 飼えばいいの

ひろ すい ようい 広い水そうを用意する

ザリガニは、年に数回卵を産み、ふつうは、春と秋が多いものです。卵をもったザリガニは、ほかのザリガニに卵や子どもを食われないよう、必ず、別の水そうで飼いましょう。

ザリガニは、底の広い水そうを用意し、石や水草などで、かくれ家を作ってやれば、飼うのは簡単です。体が大きくなると、必ず脱皮するザリガニは、かくれ家がないと、脱皮したばかりの体がやわらかいとき、仲間に共食いされることが、多いのです。

春に飼うなら、気温が上がってきて、水がくさりやすくなるので、2～3日に1回、水かえだけ注意します。秋なら、水がこもらないように、水そうを置く場所に、注意します。

たまご かんさつ 卵を観察しよう

ザリガニの腹部についてた卵は、ブドウ色から茶かっ色になり、やがて、二つの目がある赤ちゃんの形が見えてきます。殻を破って出てきた子ども(体長4ミリメートル)は、まん丸な体に、目と、すき通った小さな触角や足がついています。そして、糸で母親の腹部についてた卵の殻とつながっています。ふ化して2週間ぐらいで、2回目の脱皮をし、糸がとれて、親とほぼ同じ形(体長8ミリメートル)になり、えさも同じ物を食べるようになります。えさは、ミミズ、小さく切った魚の肉、ゆでた野菜などです。

(監修・中山 周平)

